第3章
計画の基本方針と目標

第１節　基本方針
第２節　基本目標

第１節　基本方針

■多様な環境に育まれて発展してきたまち

本市は、我が国のほぼ中央、首都圏と中京圏の中間に位置する交流拠点としての立地の優位性を活かし、長い歴史や文化の蓄積と優れた人材の集積、さらには、第１次産業から第３次産業までの均衡のとれた産業経済が集積しています。

また、南アルプスをはじめとする広大な山間地域に豊かな森林を有し、市域の７６％を森林が占めているとともに、源流から河口までが市域内で完結し、日本有数の清流を保っている安倍川、藁科川、興津川が流れ、これらの清流が全国的にもおいしい水として知られている水道水源として、７１万人の市民の命を育んでいます。さらに、南に駿河湾を臨む長く緩やかな海岸線と、富士山を借景に世界の美港として海とのふれあいの空間を形成している清水港は、人々に潤いと安らぎを提供しています。

本市は、このような山、川、海の多様で豊かな自然環境に恵まれ、これらに育まれて都市発展を遂げてきました。

■人が多様な環境を育んできたまち

世界文化遺産構成資産として登録された三保松原は、古代から神の杜として大切に守られ、地元市民をはじめとする多くの方々の地道な管理や植林によってその姿を残してきました。また、中山間地に広がる里地里山もまた、間伐や下刈りなど、定期的に人の手が加わることで多様な自然環境が維持されてきました。

さらに、現在、私たちが目にする川の流れは、先人達から現代の人々の絶え間ない治水工事などの努力によりつくられてきました。例えば、江戸時代に徳川家康公が安倍川の治水対策として薩摩土手を築堤したことなどにより、現在の安倍川と藁科川の流れとなりました。また、これに伴って今まで安倍川の水が流れ込んでいた巴川は水量が減り、ゆるやかな流れになりました。

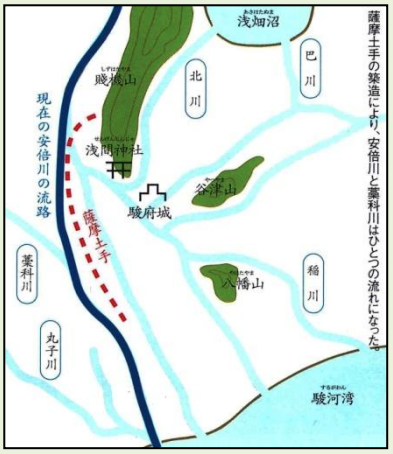
このように、多様な環境が人やまちを育んできた一方で、人が環境を育んできたともいえます。

コラム

薩摩土手

徳川家康公が将軍職を降り、大御所として駿府に居を構えるにあたり、駿府城の築城とともに着手したのが「薩摩土手」の築堤でした。

薩摩土手は、安倍川の氾濫を防ぐために造られたもので、薩摩藩が工事を請け負ったと伝えられていることから、この名がつけられました。



【資料：清流スポットマップ（静岡市）】

■直面する環境課題

一方で、大量生産・大量消費・大量廃棄を基調とした社会経済の拡大による地球規模での環境への負荷が、今日の環境問題を引き起こし、人類の存亡に関わる重要な課題として認識されるまでに至っています。特に、年々その影響が顕著に現れつつある地球温暖化や、生物多様性の低下、廃棄物の増大などの問題は、本市においても重要な環境課題となっています。

また、平成２３年３月に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故を境に、省エネルギーや再生可能エネルギーの重要性、健康や食の安全性などに国民の関心が大いに高まるなど、社会情勢に大きな影響を与えました。

■８年後を見据えた計画の基本方針

今後、８年間の静岡市の環境を見据え、以下の基本方針を掲げてその実現を目指します。

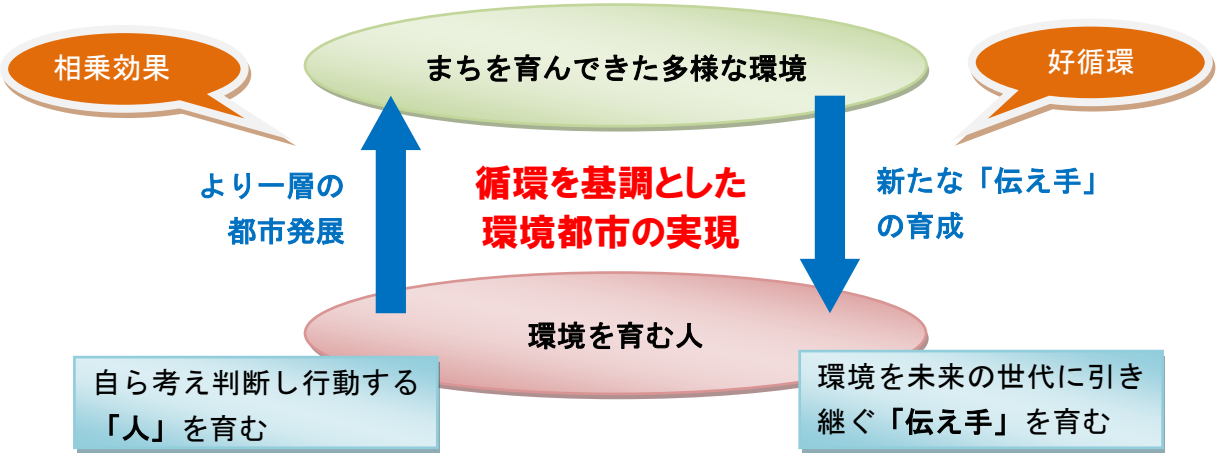
【基本方針】

人々が豊かな環境を育み
環境が健やかな人を育むまち・静岡

政令指定都市として、今後も活発な都市活動を維持するとともに、直面する環境課題を解決し、また、南アルプスをはじめとする本市の豊かで多様な環境を未来の世代へ継承していくためには、**「まちを育んできた多様な環境」と「環境を育む人」が相乗効果を生み、循環を基調とした環境都市となっていく**ことが必要です。

そのためには、市民のみならず本市を交流の場とするあらゆる人々の心理に対し働きかける実践的な「伝える活動」をとおして、**自ら考え判断し行動する「人」を育む**土壌をつくり、本市の豊かで多様な**環境を未来の世代へ繋ぐ「伝え手」を育む**必要があります。

また、それら「伝え手」により育まれた豊かで多様な環境により、**より一層の都市の発展**や**新たな「伝え手」が育まれる**という好循環な環境を創造することが欠かせないことから、この基本方針を定めました。



■将来イメージ

「人々が豊かな環境を育み　環境が健やかな人を育むまち・静岡」
南アルプス
ユネスコエコパーク
核心地域
生態系への影響に
対する適応
南アルプスの
自然環境の保全
良好な景観形成のための
意識啓発
緩衝地域
南アルプスの活用
中部横断自動車道
(平成29年度開通予定)
エコツーリズムの
推進
自然環境や生物多様性に
関する理解の促進
生物多様性に配慮した
地域づくり
移行地域
清流の保全
森林の恵みの保全
自然とのふれあいの場の
整備・活用
再生可能エネルギーによる
地域振興
水源の保全
静岡版「もったいない運動」
の展開
廃棄物関連施設の整備
新清水 I.C
河川・海岸・湿地の
恵みの保全
ゴミに関する
マナーの向上
静岡 SA
スマート IC
新東名高速道路
新静岡 SA
次世代自動車の
普及拡大
温暖化による
農畜産物への影響に
対する適応
環境美化の推進
麻機遊水地の活用
スマートハウスの
普及
藁科川
民間施設の緑化
清水いはら IC
希少種や外来種
などへの対応
国道1号静清バイパス
都市公園の
整備拡充と維持
雨水浸透の促進
東海道新幹線
駿府城公園の
再整備
清水 IC
由比駅
蒲原駅
新蒲原駅
自然環境活動の
担い手育成と
ネットワーク化
谷津山
水素タウンの
促進
興津駅
東海道本線
沿岸災害に
対する適応
興津川
河川環境を活かした
緑地整備
富士川
エコドライブの
推進
里地里山の
恵みの保全
清水駅
草薙駅
新清水駅
新静岡駅
静岡鉄道
国道1号
東静岡駅
河川災害に
対する適応
巴川
静岡駅
東名高速道路
海岸景観の保全
騒音・振動対策
省エネルギー設備・
施設の導入
再生可能エネルギーの
環境教育への活用
再生可能エネルギーの
事業所への普及
安倍川駅
(仮称)東名静岡東スマート IC
(平成29年度供用開始予定)
用宗駅
静岡 IC
景観計画の推進
都市景観の形成
三保松原の
保全・活用
ヒートアイランド
への対策
有度山
公共施設の緑化
国道150号
地下水の保全
自転車の利用促進
安倍川
歴史文化遺産の
保全・活用
生きものの生息・生育場所の
保全とネットワーク
将来イメージ

第2節　基本目標

基本目標1　住み良さを実感できる生活環境をつくります

■基本目標の考え方

■環境目標

1－1　安心安全な生活環境の確保と充実
1－2　歴史・文化とふれあう機会の充実
1－3　緑あふれる美しいまちの創出
1－4　良質な水環境の保全

環境は、空気・水・土と生きものの間を物質が循環し、生態系が保たれることによって成り立っており、私たち人類の生存基盤となっています。つまり、私たちの健康な生活は、これらの環境を健全な状態で維持していくことによって守られます。また、文化財など長い歴史や文化を現在に伝える資源や、良好な景観、公園や緑などは、私たちの快適で文化的な暮らしを支えています。

そのため、大気汚染や悪臭、騒音・振動、水質汚濁などの環境への負荷を低減して安心安全な環境づくりを進めるとともに、歴史文化・景観・緑などの保全・創造、健全な水循環の確保と回復などにより、住み良さを実感できる生活環境をつくります。

■環境指標

指標	現状（H25）	目標（H34）	備考
事業者の公害法令順守率	85%	90%	
文化財保護事業に携わる市民ボランティア数	35 人 (H26)	150 人	
市民一人当たりの都市公園面積	6.0 ㎡/人	8.0 ㎡/人	
生活排水処理率	80.7%	90%	水洗化・生活排水処理人口/本市人口×100

基本目標2　豊かな自然環境を守り、次の世代へ繋いでいきます

■基本目標の考え方

■環境目標

2－1　南アルプスなどの自然環境・生態系の保全
2－2　自然を利活用した人材の育成

本市は、南アルプスをはじめとした広大な森林や、中山間地に広がる里地里山、安倍川・藁科川・興津川などの清流、恵み豊かな駿河湾などの自然環境に恵まれています。これらの自然は、私たちの暮らしに潤いや安らぎを与えるとともに、経済活動や生活のための基盤としてとても重要なものです。

そのため、恵まれた本市の自然環境を市民共通の財産として守っていくとともに、資源を活用した賑わいの創出や自然と親しむ空間の整備、これらを活用した環境教育の充実を図っていきます。

■環境指標

指標	現状（H25）	目標（H34）	備考
南アルプス主要地域の高山植物種数の維持	15 種	15 種	
環境ボランティア数	5,013 人	5,200 人	単年度開催事業は含めない

基本目標3　総合的に地球温暖化対策に取り組みます

■基本目標の考え方

■環境目標

- ３－１　省エネルギーの推進
- ３－２　地域の特色を活かした再生可能エネルギーの普及促進
- ３－３　災害に強く環境にやさしいエネルギーの分散化
- ３－４　気候変動に適応した対策の推進

地球温暖化対策のためには、化石燃料に依存した従来の社会から脱却し、ライフスタイルや産業構造を変えることで、温室効果ガスの排出を少なく抑えた社会、いわゆる低炭素社会へ移行しなければなりません。このような中で、本市は政令指定都市として、地球温暖化対策に向けた取り組みを率先して実践していく役割と責務を有しています。

そのため、省エネルギー活動の推進はもとより、地域特性に応じた再生可能エネルギーの普及やエネルギーマネジメントなどによるエネルギーの有効利用、さらには、温暖化への適応策などを取り入れた、総合的な地球温暖化対策に取り組みます。

■環境指標

指標	現状（H25）	目標（H34）	備考
市民及び事業者の電気使用量の削減量	電灯 3.72MWh 電力 5.03MWh	8%削減 (H25 比)	特定規模需要は含めない
市内の電気消費量に対する再生可能エネルギーの構成割合	4%	6%	
防災スマート街区の形成	0	4 街区	
適応計画の策定	0	1（策定）	

基本目標4　環境に配慮した廃棄物政策を推進します

■基本目標の考え方

■環境目標

- ４－１　廃棄物のさらなる減量に向けた協働の推進
- ４－２　安定的な廃棄物処理体制の確保

大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済活動や生活様式が定着することにより、大量のごみが排出され、最終処分場における埋立残余容量のひっ迫、不法投棄の増加などが生じています。このような問題を解決するためには、社会経済システムを根本的に改め、「循環型社会」を実現することが求められています。

そのため、これまで行ってきた静岡版「もったいない運動」などを通じて４Ｒを推進し、より一層の廃棄物の減量・資源化に取り組んでいきます。

■環境指標

指標	現状（H25）	目標（H34）	備考
一人１日当たりのごみ総排出量	1,008g/人日	860g/人日	
最終処分場への埋め立て量	14,477t	11,731t	